



クビナガリュウ
「ホッピー」

ホッピーだより

No. 336

2012年11月1日発行

むかわ町立 穂別博物館

〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6

Tel/Fax 0145-45-3141

ホームページ <http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>

穂別博物館収蔵の標本が国際誌に掲載されました

長頸竜（クビナガリュウ）の専門家の佐藤たまき先生（東京学芸大学准教授）、モササウルス類の専門家の小西卓哉先生（カナダ・王立ティレル古生物学博物館博士研究員、現・アルバータ大学博士研究員）、マイケル・カウルドウェル先生（カナダ・アルバータ大学教授）、カメ化石の専門家の平山廉先生（早稲田大学教授）による共同研究で、「日本産の後期白亜紀の海棲爬虫類の再検討・総括（レビュー）」が国際学術誌 *Cretaceous Research*（「白亜紀の研究」という意味のタイトル）、第37巻（10月発行）に掲載され、その中に多数の穂別博物館収蔵資料が掲載されました（2010年ごろまでの調査結果に基づくので、モササウルス類新規資料は掲載されていません）。

掲載論文 Sato, T., Konishi, T., Hirayama, R. and Caldwell, M.W., 2012: A review of the Upper Cretaceous marine reptiles from Japan. *Cretaceous Research*, vol. 37, p.319-340.

研究された先生方は、穂別博物館に複数回来館されている方々で、佐藤先生は、今年のはじめに穂別博物館収蔵標本を用いた学会口頭発表をされ、小西先生・カウルドウェル先生は昨年のもササウルス国際シンポジウム（むかわ町で開催）で講演され、平山先生は開館当初から来館され、穂別産の新属新種のウミガメ；メソダーモケリスなどを記載されています。

この研究では、日本国内；鹿児島、香川、淡路島、大阪-和歌山、福島、岩手、北海道から産している後期白亜紀（約9,900万年～6,500万年前）の海棲爬虫類化石の分類と産出層準の再検討とまとめを行っています。この研究で多数の穂別博物館収蔵資料が用いられました。論文で図示されている資料だけで見ると、長頸竜は全6標本のうち1標本、モササウルス類は全9標本のうち5標本、ウミガメは全7標本のうち2標本が穂別博物館の収蔵資料で、さらに穂別博物館に展示されている化石ウミガメ；メソダーモケリスの復元模型が図示されています。この論文で図示された資料数は、穂別博物館収蔵資料が最も多い8標本（+復元模型1個）で、次に多いのが国立科学博物館の4標本なので、穂別博物館の海棲爬虫類化石のコレクションが国内でも特に優れているといえます。

貴重な化石を寄贈していただいた方々の好意と、博物館での地道なクリーニングによって、穂別博物館の海棲爬虫類化石は国内でも有数のコレクションになりました。こうした標本を寄贈していただいた方々に改めてお礼を申し上げます。

